

Κ Ο Σ Μ Ο Σ

Vol. 6, No. 3 1972. 4. 10

名奉行・大岡忠相の実像

——図書館の図書散歩——

荒井 貢次郎

江戸時代の奉行・大岡忠相は、「大岡政談」などで名奉行として小説・映画・TVなどを通じて民衆の知識に消化される。

これを図書館蔵書などからその実像を造形したらどうなるだろうか。

ここでは、法史的な専門操作を採らず、インスタント作業に進めるので、図書利用のアルファから始める。

ここにいう図書とは、本学図書館に限らない。

蔵書カードになれば希望図書として将来、補充してもらうことにしよう。

東京大学名誉教授・石井良助博士の「江戸時代漫筆—江戸の町奉行その他—」（井上書店刊）に、八代將軍・徳川吉宗によって山田奉行より抜擢されて名奉行の誉の高い大岡越前守忠相は、享保年間、南町奉行になった。奉行所は、現在の朝日新聞東京本社^{ただすけ}の辺に東向きに建てられていたのは、忠相の設計によったとある。

辻達也博士の「大岡越前守一名奉行の虚像と実像—」（中公新書・56）に、忠相は享保2年（1717）、41才で町奉行に就任し、元文元年（1736）に、当時、旗本としては例外的な抜擢をうけて寺社奉行に昇進し、大名になった。

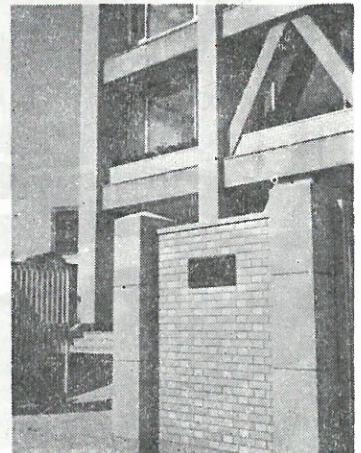
本学校友で、私たちとともに「東洋大学八十年史」の編纂にたずさわった委員の1人故・宇野脩平博士の「大岡越前守」（NHKブック・61）に寛保元年（1741）11月、いまの最高裁判所にあたる評定所の法廷で忠相が、主席裁判官の公正を欠く態度にもかかわらず、正論を展開し、飛脚問屋仲間を特権的な株仲間にしようとする動きを社会発展の支障になると抑え、飛脚仲間の深い感謝をうけ、のち「高恩神」として祭られたという。

忠相の名声は主として講談師によって名裁判官に造成されていった。

昭和39年・春、宇野氏は東京大岡忠輔家に未公開の大岡忠相日記・古記録などが保存されているのを知り、同年

（次頁につづく）

巻頭言	1
新刊図書案内	3
参考図書の解題	4
辞書体目録	5
実地視察報告	7
業務報告	8



5月に、朝日新聞を通じ大岡史料の収集を全国に訴えた。

かつての司法大臣・法政大学総長であった小山松吉氏の「名判官物語」(再新版・人物往来社刊)は、大岡政談の虚・実を解明している。

大岡越前守奉讃会刊「大岡越前守写真集成」(昭和45年刊)に、忠相は75才で他界し、神奈川県茅ヶ崎市の大岡家所領地内・窓月山浄見寺(菩提寺)にその墳墓が、寺内に建つ、歌人・川田順の「大岡公の紋ところ公孫樹の実こそ踏むに惜しけれ」の歌碑が収録される。

本年3月中旬以降、続刊される本学文学部講師大石慎三郎、伊藤好一、林怜子、宇野脩平諸氏の「大岡越前守忠相日記」(全3巻・三一書房)がある。

忠相公務日記で、寺社奉行時代の元文2年(1751)閏6月までの14年間にわたり、その間とびとび3年6ヶ月分を欠くが、他はほぼ完全な公的生活日記で、1揃3万円である。

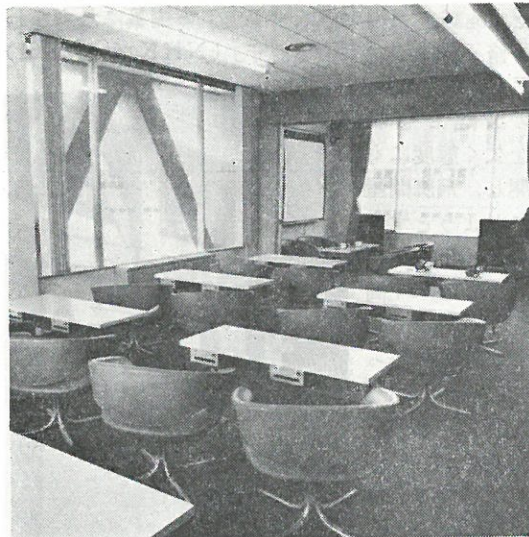
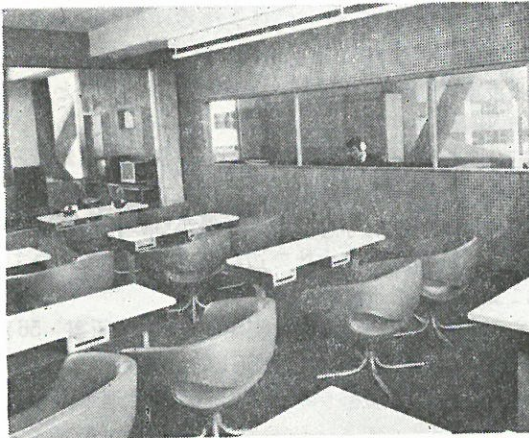
本学図書館に備えられるから、近世史研究には必見の資料として推せんしたい。

(法学部教授・図書館運営委員)

視聴覚室ができました

—5月中旬オープン予定—

約600万円の費用をかけて工事中だった視聴覚室が3月11日に完成しました。コミュニケーション

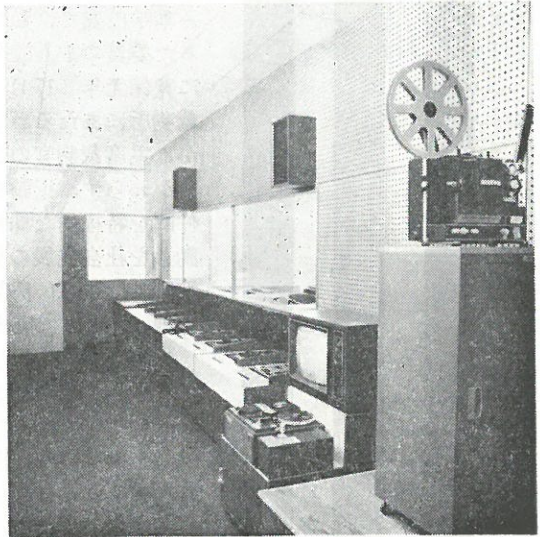


の発展にともなって、図書館がその資料として図書・文献資料だけを収集していくというままでの方法では、その使命を十分に達することはできなくなり、他の多くの図書館のように本学図書館でも視聴覚室を設けた訳です。

視聴覚室には次の機器が備えてあります。

レコードプレーヤ	4台
オープンテープレコーダ	3台
カセットテープレコーダ	1台
ラジオチューナ	2台
オールウェーブラジオ	1台
ビデオプレーヤ(カラー)	1台
モニターテレビ(カラー)	2台
スライドプロジェクター	2台
8mm映写機	1台
16mm映写機	1台

(なお、視聴覚室の詳しい利用案内は5月中旬の開室と同時に発行される予定です。)



加藤寛・丸尾直美編

「世界の新しい潮流
—経営参加とは何か—

「ビジネスの世界が、現代の若者にとり、魅力に乏しい職場である」との論旨が打ち出されてから既に久しい。

また、現代社会を我々は「情報産業社会」とか「知識社会」とか呼んでいる。

これらは工業化社会とは異なり、物量の尺度で測れない「非物量の社会」が登場していることを意味している。

本書はこういった意味で、これからの社会に進展しようとする組織体を考察する上で、啓蒙情報としての価値を、その内容に持つものである。

書名が示すように、前半において、具体的な「産業民主化」をさす「経営参加」の考え方およびその背景、さらに情報化社会における経営参加の形態、また勤労者の財産所有への参加などの諸問題がとりあげられている。

集約すれば、組織社会の構成員が何らかの形で分配および所有と、組織の運営権と技術・情報へ積極的に参加できる「参加社会」の実現こそがひっきょう、社会の福祉増進を支える上で不可欠の支柱であるということを述べている。

後半においては、イギリス・スウェーデン・ノルウェー・西ドイツ・アメリカ等、各国の経営参加の実態が、研究論文的な叙述をもって説明されており、我々読者は、各国の主体的および環境的諸条件（その時代の経済・社会制度、労働運動ならびに経営陣の性格など）をもとにして生まれた各種の産業民主制の形態と性格とを知ることができる。但し、参加とは、「両刃の剣」となりうるという編者の言葉が歴史的事例から引出せるように、我々は、それがそのような形態で、どのように行なわれるのか、ということをも十分に考慮することが必要であろう。

—S—



「誰が生き残るか
—プロテウスの人間—

まづ、プロテウスの人間について説明をしなければならない—プロテウスとはギリシア神話の海神で、この神は変幻自在ではあるが自分自身の真の姿をあらわすことができない。そして予言の能力を持ちながらも予言することはなかった—こうした人格特性は特に若い人々に多くみられる。

こうした人格特性は、かつて、神経症とされていた、つまりこれは心的葛藤のあらわれがプロテウスの人間であるということによる。

プロテウスをまづ経験することによって自己の回復を試みようとする現代のプロテウスの人間は決して異常なものではなく、むしろ現代には欠かせない機能的なパターンの一つなのかも知れない、だから我々はプロテウスの人間について、その困難さだけではなく、その可能性を信頼すべきであると著者は言う。

書名からうける印象とはかなり異って、心理学の知識のない者にとっては、かなり薄い本であるにもかかわらず、難解な本である。 —T—

宮崎 市定 著

「中国に学ぶ」

世をあげての中国ブームである。

中国の国際社会復帰以来、官僚化・新しい階級の発生によるソ連共産主義に失望した共産主義者が中国のそれに王道楽土を夢み、COCOMの対中国輸出禁止品が他の共産圏諸国並みになって採手をしている商人 etc. 現在の日本はニクソンの頭越しの北京訪問以来、茫然自失・青天の霹靂、とにかく大変な騒ぎである。

それは、主体性を持った常に冷静な判断を怠ったものが受ける当然の報いであると同じく中共政権誕生以来、新しいユートピアを確信していた向きにとって、あの文化大革命は大きなショックであったろう。

(次頁につづく)

一体に、日本人は物事に対し全く信用しないか、或いは一蓮托生といった態度をとりつづけてきた。

これは一つには日本は小さな島国でつい百年前までは外国との交渉を断って、小さな穀にとじこもっていた結果、大所高所からの判断が苦手であったためである。

中国というユーラシア大陸の一部を占める国にとって周囲の外国と国境を接してもまれ、又3000年の歴史を有し、数多くの戦乱・天災・苛斂誅求にたくましく生きぬいた中国、その土地と人民から学ぶものは多い。

それは著者がいうように一山なす泥沙を流し、洗い、淘^とげて得た最後の一撮みの黄金であり、それは長い目で物を見ること、表面ばかりでなく必ず裏面の存在を考えることである。

支那学・東洋史の研究に人生の大半をうちこんできた著者が歴史からの豊富な引用さをもとに書き文章は平明で解りやすく、中国の官僚制についてのくぐりなかなかに興味深いものがある。

—U—



参考図書の解題

—日本の全国書誌について—

一国の言語でつくられた図書の目録又は書誌で、住居の如何に係りなく、出身者によって書かれ、又は出身者についての図書で、その国で生産された図書の総合的な目録が全国書誌です。今回は、日本における主な全国書誌をとりあげてみました。

① 全日本出版総目録

国立国会図書館法第7条の規定によって、当該年度において国内で刊行され、同館に納入された出版物が記録されている。内容については「図書の部」と「逐次刊行物の部」に大別され、それぞれアルファベット順の書名索引、誌名索引が附されているのは便利である。なお、同館発行の納本

週報がこの総目録の母体になっており、併せて利用されれば、より効果的であることを付記したい。(国立国会図書館編刊 請求記号025.1:K)

② 出版年鑑

当該年度の前年中に刊行された新刊並びに重版を含む書籍と、雑誌、並びに年間史、関係事項、諸統計、関係簿、法規等が収録されている。とくに雑誌目録の項には付属として、図書・図書館関係雑誌記事索引があげられている点も見のがせない。又、名簿の項には、おもな出版社や図書館及び新聞社があげられており、利用価値が大であるといえよう。なお、出版ニュース(旬間)を併せて利用することが望ましいのはこの場合も同様である。(出版ニュース社編 請求記号025.1:S-2)

レファレンス・サービスの実例 —第2回—

前回に続いて参考質問及び回答の実例を紹介したいと思います。

(1) 断食の世界最長記録を知りたい —学生

The Guinness book of records (記録の百科辞典)によると、スコットランド人、ティポットは、382日間、病院で紅茶、コーヒー、水、ソーダ水のみで断食を続けたという記録がある。体重減は214kg—81kg。

(2) ニュージーランドの日本語名称について —職員

一般的な世界地図のニュージーランドの項目には日本語名称は記載されていない。世界地名大辞典(290.3:KF)をみると、ニュージーランドは新西蘭であることがわかる。

(3) 今の100万円の今後の価値について—教員

昭和45年度経済白書資料より試算すると、物価高のもとで100万円の値うちも年々減っていきますが、大体5年後には76万円、10年後には58万円、15年後には44万円、20年後には34万円の価値しかなくなります。

カードの探し方



この目録は、著者名、書名、主題のどれからでも資料を探せるように作られた目録体系で、手掛りの多いことが特徴となっています。この手掛りの多さは、カードの枚数が多いということであり、並べ方に複雑な規則を必要とします。図書館は、できるだけ適格な見出しを必要な限り選択して、和漢書、洋書を一緒に並べ、時代、地域、言語とも異なった文献を、誰にでも引けるような単純な体系にするように作業をしています。

たとえば、洋書と和漢書のカードを同一条件の下において並べるために、和漢書のカードは、読み方をヘボン式ローマ字におきかえています。

その場合、漢字、平仮名、片仮名からなる日本語を、ただ無造作にABCの羅列にただけだけでは使いにくいので、ローマ字の分かち書きという方法がとられ、ところどころに見出しが入れられます。

また、著者名、書名、主題を、それぞれ区別するために、ローマ字の書き出しの位置を変えたり、赤で書いたり、アンダーラインを引くなど、カードを見やすくする工夫がなされています。

カードを探す人は、ABC順に、見出しをたよりに引いてゆけばいいのですが、実は、もう少し規則を知っていた方が探しやすいのです。そこで当館のカードの並べ方のうち、主なものをあげてみます。

① ABC順に、1字1字を基準として並べる。

(字順排列)

② ラテン・アルファベット以外の言語は、すべてラテンアルファベットに翻字する。

{	ロシア語……………ALA翻字表
	日本語……………ヘボン式ローマ字表
	中国・朝鮮語は日本語の音読みで "

③ 無は有に先きだつ。

④ コンマ(,)ピリオド(.)で切れるところまでを一単位として並べる。

⑤ ドイツ語のウムラウト(¨)などは、

ä=ae, ö=oe, ü=ue, ø=oe

として並べる。

⑥ 数詞は、その書かれている言語で発音するとうりに読み、そのABC順に並べる。

⑦ 書名のはじめの冠詞は、無視し、次の語から並べる。

⑧ 省略形の接頭語は、完全な綴りにして並べる。D'=De, M'=Mac, Mc=Mac のように。

⑨ 著者名は、姓で並べ、コンマで区切って、同じ姓をまとめる。同じ姓の中は名前のABC順。日本語の同音異義の場合は、漢字の画数の少ないものが先にくる。

なお、著者名につく接頭語は無視しない。

⑩ 同一著者の著作は、原則として書名のABC順にするが、個人の全集が一番はじめに並べられ、次にその他の著作集(選集など)、そして個々の作品がくる。

⑪ 著者名、主題、書名が全く同じ場合は、著者名、主題、書名の順にする。

たとえば芥川竜之介の場合

i) 芥川竜之介の書いたもの

“全集”、“未定稿集”、“アグニの神”、“或阿呆の一生”など

ii) 芥川竜之介について書かれたもの

岩井寛著“芥川竜之介; 芸術と病理”、
駒沢嘉美著“芥川竜之介の世界”など

iii) 芥川竜之介という書名のもの

日本文学研究資料刊行会編纂“芥川竜之介”

このi) ii) iii)の順にカードは並びます。

このほかについても、カードを引きながら、混沌だと思った中から、ある規則正しさ、合理性を見出す楽しみを、味わった方も多いことと思います。
(整理課 嶋田)

賢明なる愚人

——折り折りに浮かぶことば——



学ぶや禄その中にあり (孔子)

駿馬にも鞭うつ理あり (日蓮)

親鸞は弟子一人も持たず候 (歎異抄)

心は読めども身に読まず (日蓮)

憤せざれば啓せず (論語)

深く耕して浅くうゆる (道元)

和顔愛語 (経文)

脚下照顧 (禅)

学問はおきどころによりて、善悪分れる。
へその下よし、鼻の下悪し (三浦梅園)

おりおりに遊ぶいとまのある人の、いとまなしと
て文よまむかな (本居宣長)

新しき本を買い来て読む夜半の、そのたのしさも
長くわすれぬ (石川啄木)

全く、間違いの無い本がある。

全く、間違いの無い人間のように。

全く味気ない。

良くかまないで読むから、下痢をする。

豆腐の様な本をかんで読むから、時間がなくなる。

一つの論文、一冊の本を書こうと思ったら、
図書館中の本は、

玩具箱をひっくり返した様になるはずだが。

本が読みたいと云う事と、

本でも読もうかと云う事は、

まるっきり違う。

遊びながら書いたものを、

人は緊張して情熱をこめて読む。

緊張して情熱をこめて書いたものを、

人は遊びながら読む。

読書とは、知識の材料提供の具、

消化するのは各人の思索の力。

ペダンティックは、イグノランスより、始末が悪い。

ある集会から、ある学者が、帰って来た。

ある人が聞いた。どうでしたかと。

学者は答えた。

もしあれが本だったら、読まないだろうね。

—M. K.—

新館移行後来訪者

46年10月4日 青山学院大学間島記念図書館館長
外3名。

10月19日 東海大学附属図書館清水分館館長
渡辺氏外。

10月20日 私立短大協会図書館研究委員会委
員60名。

11月19日 東京工業大学附属図書館。

11月20日 東京女子大学図書館館長外10名。
武蔵野女子大学図書館。

11月22日 東北学院大学図書館堀江氏外。

47年1月29日 神奈川大学図書館大石氏外7名。

2月18日 立正大学図書館斎藤氏外6名。

2月23日 九州大学附属図書館4名。

3月17日 同志社大学図書館元木氏外2名。

3月18日 大学図書館問題研究会会員13名。

大学図書館視察委員による図書館 の实地視察をうけて

昨年12月1日文部省の大学図書館視察委員による本学の図書館实地視察が行われた。この大学図書館視察委員制度は、昭和40年度より文部省に設置され、委員の定数は20人で、大学の学長、教授又は助教授、学識経験者のうちから文部大臣が任命する。その目的とするところは、大学図書館および学術情報に関する研究施設の組織、運営等の改善充実のため、各国公私立大学の図書館を实地に視察し、各大学の実情に即応した指導と助言を行なうことにある。毎年概ね16、7校程の視察が行われている。

本学図書館も昨年11月初め、その通知をうけ12月1日実施された。

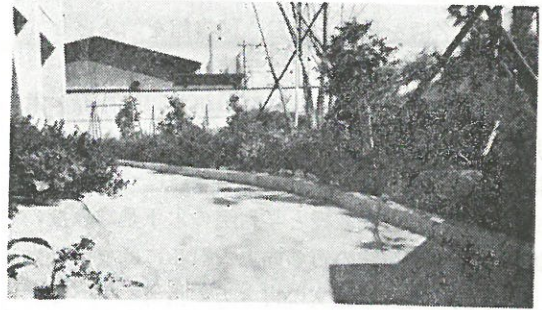
視察内容

本年度の視察内容の第1点は、大学図書館の組織と運営についてである。

「大学図書館とは、中央図書館、分館ならびに各学部および附属研究所の内に設けられたすべての図書館（室）等を総括したもの」と大学図書館設置基準要項には規定されているが、その大学図書館の構成単位が全学的な見地から組織化され、有機的、一体的な連絡調整が行われる管理運営機構が確立しているか否か。大学の図書館行政の基本方針策定の機関、例えば図書館運営委員会、図書選択委員会の構成員の審議事項、学内の位置付け。又、館長、分館長の選任、身分および地位、責任、権限は如何。その他、業務内容と事務組織、予算、学内図書館関係人事、職員研修、開館状況等についてである。

第2点は、図書館資料の収集と整理について、就中、資料の収集、選択の方法、整理業務の学内に於ける統一性および合理化、機械化の程度、整理能率、逐次刊行物の製本状況は如何。

第3点は、学術情報サービス、参考業務および閲覧業務の体制と利用状況について。先づ参考業務のための組織、施設、設備の整備状況、その業



務範囲と活動状況、図書館利用についての制限の有無。又、文献複写業務および図書館間の相互協力の現況、等を中心として实地視察が行なわれた。

説明・視察・所見

この視察にあたって文部省側から視察委員4名事務官1名が来校した。本学側から、磯村学長、佐瀬短大学長、三沢理事長、吉田、清水、石川の各常務理事、大野総務部長、岡田図書館長、一瀬分館長、荒井（法学部）運営委員、斉藤（経営学部）図書選択委員が参席した。

先づ全員第3会議室に会し、磯村学長、三沢理事長より挨拶があり、続いて岡田館長より本学図書館の全般的説明が行われた。後、直ちに新図書館の閲覧室、書庫、事務室等、全容をつぶさに視察した。視察が終って再度第3会議室にて前記の視察内容を中心として委員との意見交換が行われた。その結果、委員より若干の所見が述べられたが、主査委員より、助言とか指導ということではなく大学図書館としての共通の問題点が本学にもあると云うことでとらえて頂きたい、と前置きして、図書館は全学的収書計画を立て、図書行政を行なうよう改善を計られたい、との総合的な所見が述べられた。

この視察結果については文部省の策定した視察校の視察完了後、概ね年度末に総括された視察結果報告書が文部省より送付されることになるであろう。

ドキュメンテーション

講習会に参加して

去る2月22日から4日間、東大総合図書館で行なわれたドキュメンテーション講習会に参加した。申し込みは200名を越えたそうだが50名はことわられ150名という人数で講習を受けることになった。名簿を見ると公私立図書館を始めとして研究室、試験場の職員、大学院生もいた。

講習の内容は「学術雑誌について」、「抄録・索引の作り方」などドキュメンテーションに関する諸々の事であった。最初の学術雑誌については人文科学の梅棹忠夫教授と学習院の木下是雄教授の講演で、学術雑誌の質の向上を計るにはまず学生（大学院程度）に論文の書き方の指導をすべきだということから始まり、よい学術論文は中味がよいだけではよい論文とは言えないということを論文を書く側から話されたのでたいへん興味深かった。講師が大学の先生なので、さそ話がうまかろうと思うと、学生があわれになるような先生もいた。抄録の作り方、使い方を話された癌研究所癌化学療法情報センターの溝口歌子先生は女性でありながらも非常にさっぱりした口調で抄録についての話を下さった。たくさんの抄録の例を出して細かな点に注意して話を進めたので、頭に入りやすかった。

その他「著作権について」など、ドキュメンテーションに関するいろいろな講演を聞いた。非常に専門的で理解しがたいものもあったが、4日間講習を受けたことにより、そうとう刺激になった。ダラダラと惰性におし流されて仕事をしていた自分にカツを入れてくれた。

(工学部分館・藤野久美子)

投書箱の設置

利用者みなさんから御意見、御希望をお寄せいただく投書箱を設けました。図書館ニュース(KOΣMOΣ)への投稿にも御利用下さい。場所は、2階入口のすぐ前と、3階休憩コーナーの2箇所です。

コンテンツ・サービスをはじめ

この度、雑誌係では、雑誌のレファレンスの一環として、コンテンツ・サービスを始めました。これは雑誌の最新号の目次を複写して、皆さんにより早く、どのような論文が載っているかをお伝えし、直接雑誌を手にして内容を探すという手間を省こうとするものです。また各雑誌ごとにファイルしてありますので一定期間たてば総目次となり、適及的研究の資料として有用となるでしょう。

現在実施している雑誌は、「哲学研究」「思想」「歴史学研究」「経済セミナー」「ジュリスト」「社会科学研究」「教育」「解釈と教材の研究」等45誌ですが、皆さんの希望があれば今後ふやす計画もあります。

参考・雑誌室の奥、さしこみ書架に並んでいる、ピンクのファイルですので御利用下さい。

(雑誌係)

春季休暇中の閲覧業務

図書館では、昭和46年度の春休み期間中、閲覧業務取扱いを中止しました。

即ち、新図書館への移転に伴う利用者数の大幅な増加、中でもみなさんの図書館に対する要求の質量両面にわたる拡がりに対応して、サービスを組織化し、多角的で、より質の高いものにする必要に迫られていることが、その主な理由です。

図書館では、サービスを支えている内部条件の整備(例えば、参考室、開架書庫、閉架書庫の図書照合・調査・点検、製本のための下準備、書庫内の整備、購入逐次刊行物目録の作成等々)を急ぐと共に、「利用のしおり」の大幅な改訂、視聴覚室の整備等々、サービスの前線に立つと考えられる業務と、取り組んでいます。長期的な展望からは、必ずみなさんの研究教育活動に資する措置であることを御理解下されば幸いです。

(閲覧係)

編集後記 「図書館をよくする」ための考え方は人さまざまです。そのために私たち編集者は、頭を悩ませました。このニュースが、一つの足がかりとなれば、幸いです。(Y)